



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

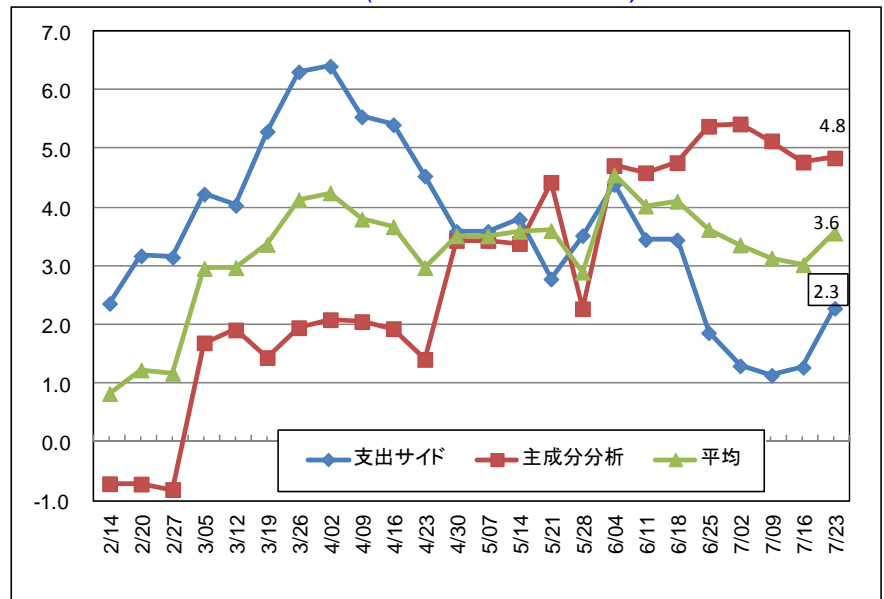
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年7月23日)

ポイント

- ▶先週(7/16-7/20)は、6月の公共工事請負、5月の毎月勤労統計(確報値)、景気動向指数(改訂値)、建設総合統計、全産業活動指数が更新された。
- ▶これらのデータは公的固定資本形成及び雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。
- ▶全産業供給指数(最終需要部門計)の動向を見ると、5月は前月比横ばい。このため、同指数の4-5月期平均は1-3月期平均比+0.9%高い水準となっており、4-6月期の最終需要の好調な伸びが予想される。これはCQMの見方と整合的である。
- ▶5月の公共工事は前年比+10.5%と4ヵ月連続のプラス。季節調整値は前月比+22.1%増加し、3ヵ月ぶりのプラス。この結果、4-6月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から大幅に上方修正された。
- ▶今週のCQMは、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.3%と予測。先週(+1.3%)から上方修正された。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q2 (%，前期比年率換算)



<5月の全産業供給指数の結果は4-6月期の好調な最終需要の伸びを示唆。超短期予測の見方を支持>

先週(7/16-7/20)は、6月の公共工事請負、5月の全産業活動指数、建設総合統計、毎月勤労統計(確報値)、景気動向指数(改訂値)が更新された。これらのデータは公的固定資本形成及び雇用者報酬の予測値に影響を及ぼす。

5月の全産業活動指数は前月比-0.3%低下し、2ヵ月ぶりのマイナス。この結果、同指数の4-5月期平均は1-3月期平均比-0.3%低い水準にあり、6月に大きな positive surprise がない限り、4-6月期の全産業活動指数は横ばいに近い状態となる。一方、輸入等を調整した全産業供給指数(最終需要部門計)の動向を見ると、5月は前月比横ばいとなった。このため、4-5月期平均は1-3月期平均比+0.9%高い水準となっており、4-6月期の最終需要は好調な伸びが予想される。これはCQMの見方と整合的である。

5月の公共工事(出来高ベース)は前年比+10.5%増加し、4ヵ月連続のプラスとなった。1年前の水準は震災の影響で低かったために前年比でプラスを持続していても問題は前月比の動向である。季節調整値は、3-4月は2ヵ月連続でマイナスを記録したが、5月は同+22.1%増加し、3ヵ月ぶりのプラスとなった。この結果、4-6月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から大幅上方修正された(前期比-4.9%→同+0.1%)。

実質公的固定資本形成の予測値が上方修正されたため、今週(7/23)のCQM(支出サイド)は、4-6月期実質GDP成長率を前期比年率+2.3%と予測する。先週の予測(+1.3%)から上方修正された。内需は引き続き回復しているが純輸出が成長を引き下げている。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550